



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 米軍機は見たのか？

02 博物館に収蔵された鳥の巣

Vol.325

2024/07/01



八重柏誠《明治時代の名残を探せ！》

Photo 今月の1枚

明治時代以降、計画的に開拓が進められた北海道を上空から見ると、道路や畑が碁盤の目ごばんのように配置しているのがわかります。美幌町の道路も碁盤の目のようになっていますが、ところどころで斜めに走る道路が見られます。碁盤の目に逆らうように配置された道路の正体は？ロビー展でその謎を解き明かします。(八重柏誠)



01 Green Column グリーンコラム

米軍機は 見たのか？

写真・文／八重柏誠

3月から始まった特別展ですが、おかげさまで多くの皆様にご来館いただいております。美幌町の歴史を振り返るということもあり、昔の美幌町を懐かしむ、高齢者のご来館が目立つように感じます。

展示資料のうち、戦前から戦時中にかけて、美幌町内で撮影された動画資料は、イチ押し資料と呼べるものです。私のオススメ映像は、終戦直後に米軍機が偵察のため飛来した際に、撮影されたと思われる動画資料です。ご来館いただいている高齢者のなかには、戦時中の美幌町の様子を、克明に覚えているという方もいらっしゃいます。中には北海道空襲の時に、美幌町でも米軍機が並んで飛んでいるのが見えた、というお話を聞かせていただくこともありました。

昭和20(1945)年7月の北海道空襲では、海軍の航空基地があった美幌

町も攻撃目標となっていました。攻撃当日、美幌町上空は厚い雲に覆われており、航空基地への攻撃を断念した米軍機は、網走・小清水方面で攻撃を行ないました。美幌^{そうしよ}叢書「美幌海軍航空隊」では、米軍機の音だけは聞こえたという証言や、網走方面の雲の切れ間から、急降下爆撃をする米軍機が見えたという証言が紹介されています。今回教えていただいたお話について、どこで見たのか具体的なことはわかりませんでした。美幌町内から見えたことや、7月の北海道空襲の時だったことは覚えているとのことでした。

今回のお話は、美幌叢書の中の証言「雲の切れ間から見えた」というお話と関係しているのかもしれませんが。今後も、展示解説をする際には、当時のことを覚えている皆様の声に、耳を傾けていきたいと思います。

博物館に収蔵 された鳥の巣

写真・文／町田善康



鳥という動物には4つの共通した特徴があります。①くちばしを持つこと、②全身が羽毛で覆われていること、③前足が翼になっていること、④硬い殻の卵を産むことです。これらの特徴を持つ中で、ほとんどすべての鳥が、大切な卵やヒナを守るために巣をつくります（コウテイペンギンとオオサマペンギンだけは、足の上で卵を温め、ヒナを育てるので例外です）。加えて、その鳥が住む場所や生態によって、種々様々な素材や形の巣になります。7月から始まるロビー展「すごい標本！すごい資料！」では、博物館に収蔵されている鳥の巣を紹介しようと思っています。

さて、鳥の巣の採集は、必ず巣の持ち主の子育てが終わってから採りに行きます。しかし、その巣を誰が使ったのか調べる必要があるので、繁殖期の観察は必要不可欠です。その際、子育

てをやめてしまわないよう観察時間を短時間にしたり、遠くから見たり、自分の姿を隠したり、十二分な配慮を心がけます。それでも視力が良い鳥たちは、私の姿に気が付き、警戒の様子を見せたらすぐにその場を立ち去るようにしています。

最近デジタルカメラの普及で、大勢のカメラマンが巣の近くで親鳥が帰ってくるのを待ち続ける様子をよく目にします。鳥の立場になって考えれば、彼らにどれほど迷惑をかけているかは、簡単に想像できます。もし、皆さんが鳥の巣を見つけ時には、鳥が飛び去ったり、嫌がる素振りを見せたら、すぐにその場を離れてあげてください。

Exhibition 展示

特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」

10月20日（日）まで

ロビー展「すごい標本！すごい資料！」

7月6日（土）～10月8日（日）まで

Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル

7/2（火）～8/31（土）まで

受付／美幌博物館

参加費／無料

プチ工房「ポケモン☆キラキラカスタネット」

7/26（金）、27（土）10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品ができ次第終了

美幌博物館 1階 講座室・440円

講師／城坂結実（美幌博物館）

対象／中学生以下のお子様（小学3年生以下は保護者同伴）

※転売等の恐れがあるため対象年齢を設けています。

※2日間通してお一人様1つ限り。

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

入職してから、鳥のことを一から勉強してきました。剥製をつくるため、死骸を扱うので、姿を見れば種類がわかるようになりました。しかし、今年は屋外で鳥の調査をする機会が多いです。声を聴いて種類を識別するのは難しく、もっと勉強しておけばよかったと、後悔しています。（町田善康）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】早田真莉子

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

